夢かなっテク 通信

～　かなテク西部に入校し、自分の夢をかなえた方のメッセージです　～

出 発 点

室内設計施工コース　Ｙ・Ｓさん（19 歳　女性）

父親の仕事は建設業。「建築という仕事は地図に残るすごい仕事なんだ」と、本気で建設に関わる仕事がしたいと考えるようになりました。

女性であること、また、障害のあったことなどから、内装職人を目指して、西部総合職業技術校の室内設計施工コースに入校しました。

現場に出て、何を任せられても、積極的に学ぶ姿勢を忘れず、一日でも早く、現場で役に立つ職人となるという夢への第一歩を踏み出しました。

私は現在、西部総合職業技術校の室内設計施工コースに通っており、もう９ヶ月ほどになります。

壁紙や床張り、配管工事、図面作成など、色々な分野について学んでいます。授業は実習が多く、外部から、現役の職人さんが講師として来てくださいます。授業を受ける中で、話を聞いているだけでもたくさんのことを学べますが、先生の所作からも、とても多くのこ

とを学べます。講師で来てくださっているのは、熟練した職人さんたちなので、その立ち回りや癖、道具の扱い方などからも、より効率的に、良い仕事をするための工夫がたくさんあります。例えばカッターの扱い方などがそうです。カッター自体は、日常生活でも一般に使うものなので、珍しいものではありませんが、職人さんたちは長年の経験から、怪我をしにくい扱い方や無理なく切る方法をよく知っています。先生の手元をよく見ていると、多くのことを学べるので、集中すればするほど得られるものがあります。

建設の仕事に興味を持ったのは、父親が建設業をしていたことがきっかけです。幼い頃から一緒に出掛けると「あれは自分が建てたマンションなんだよ。」と、よく教えてくれました。「建築という仕事は地図に残るすごい仕事なんだ。」と、思うようになりました。高校に入ってからしばらくしたとき、ある友人が建設ボランティアに参加し、その時の様子を話してくれました。建物が出来上がっていく写真や、大勢の人が協力してひとつのものを作っていくその様子を聞き、私自身もいつか建設ボランティアに参加したいと思うようになりました。本気で建設に関わる仕事がしたいと考えるようになりました。しかし、女性であること、また、左耳が聞こえないなど障害のあったことから、心配されることも多くありました。それでも、何とか自分でも建設現場に携われる仕事がないかと探していた時、知人から勧められたのが、内装職人でした。そして、同時に内装の勉強ができるコースがあるということで、職業技術校のことも紹介してもらい、進学を決定しました。

技術校で学ぶ中で、一番大きかった出来事は、県の技能コンクールに出場したことです。開催されたのは１１月で私はプラスチック

床部門に出場させていただきました。競技課題のタイル張りやシート張りは、床張りの授業で施工の仕方を少し教えてもらった程度だったので、最初はうまく納めることができませんでした。また、大会が近づくにつれて、問題となったのは制限時間です。課題の制限時間は３時間で、その間に、型取りや糊入れなど、多くの作業をこなさなければなりません。迅速に丁寧に作業するように、というのは授業でもよく言われていることでしたが、時間に追われて作業するのは初めてだったので、大変でした。実際に現場で働く職人さんたちも参加する大会だったこともあり、プロの方と比べられるという緊張もありました。練習期間には、作業工程をよく頭に入れて、少しでも手の止まる時間を減らしたり、狭い場所での作業になるので、立ち回りや道具の並べ方の工夫などにより、少しずつ時間を縮めることができました。**本番中、最も意識したのは、最後まで諦めないことと、自分のペースを崩さないこと**です。少し焦ったところもありましたが、それでも、無事に時間内に仕上げることができ、**技能コンクール銀賞受賞という大きな結果を残すことができました。**大勢の人に自分の作業の評価をしてもらえるということは、初めての経験だったので、とても勉強になりました。

技術校に通う中で、私は自分にとって大きな２つの課題を見つけました。ひとつは、仕事の段取りを考えるということです。内装の仕事は、たくさんの職人さんが並行して仕事をします。ひとつの仕事が遅れると全体の進捗に関わります。なので、職人さんは、作業の全体像を把握して、次に何ができるか、どうすれば効率がいいかを考えながら作業しています。今の私は、ひとつの作業を終えてから、ようやく次に何をするのかを考えているため、時間をとられてしまいがちです。段取りの大切さを考えさせられました。

もうひとつの課題はペース配分です。講師の先生方からもよく言われたのは「力を抜いてもいいところと、集中力が必要なところを見極めるように。」ということでした。私にとって今あげた段取りとペース配分は、今後の作業の速さや効率を上げるための重要な課題です。技能コンクールでも学んだことですが、常に手を動かして、迅速に丁寧に仕上げられるよう、さらに頑張っていきたいと思います。

内装の仕事はとても応用力の求められる仕事です。「同じ現場はひとつもない。」と、講師の先生もおっしゃっていました。やり方を知っていれば誰でも出来るというものではなくて、**常に自分で考えて、工夫することが必要**です。その力は、実際に現場に出て、たくさんの仕事を経験しないと身に付きません。私は、技術校で学んで「職人は十年経ってからようやく一人前。」という言葉の意味をやっと理解できました。私は現在、就職を考えている最中です。**これから現場に出て、何を任せられても、積極的に学ぶ姿勢を忘れず、一日でも早く、現場で役に立てるようになりたいと思います。**